

# 「おまんた 元気かね！」

杉並区 勝島敏明（直江津中島区出身）

現在、私は「直江津高校同窓会関東支部」の支部長を仰せつかっている。第七代目の支部長ということらしい。前支部長の水嶋晃氏は過去三十年の長きにわたって同会を引っ張ってこられた超ベテランである。浅学非才な私には荷の重い役割で心もとないというのが実感ではあったが、主たる職場を定年退職した現在お世話になった皆様への恩返しのためにお引き受けした次第である。

Jネットの会員の皆様に我々の会の実状を知っていただくのも意義あることかと思ひ駄文をしたためることにした。直江津高校同窓会には本部といくつかの支部がある。関東支部はその中でも中核としての役割を担っている。東京を中心として関東に居住する同窓生を会員としている。現在三千人を超える規模である。

主な活動としては、年一回の総会の開催と年二回のゴルフ会で、もっぱら会員相互の親睦を図っている。

直江津高校同窓会は昭和二十五年に発足したと聞いている。農商高校（男子校）と女学校が昭和二十五年四月に合併して普通課程、商業課程、農業課程、家庭課程の四課程をもつ総合高校として発足した経緯がある。また、定時制、柿崎分校、三和分校もあり、極めて複雑なものとなった。したがって、同窓会会員同世代での一体感と言う点については、なかなか理想的に行かないという難しさを内在している。その点、高田高校や北城高校とは大きく異なるわけで、同窓会の運営にそれなりの難しさを持っているわけである。

現在は卒業年度ごとに幹事を置き、会員の横の連絡を密にすることにより参加

意識と一体感の確保に努めている。役員会の合意に基づき、「同窓会だより」の発行や総会準備等役員の間同作業により一体感、活性化に務めているところである。

役員会の都度の夕食会は、同窓生の宮んでいる新潟地酒の店で行われ世代を超えて楽しい会話をかわし合っている。ある役員いわく、「直江津高校の先輩の中で、後輩が何を言っても、えはったり怒ったりする人は誰もいない」。こんな雰囲気、わが支部の現状である。

高田高校同窓会のような規模にはいたらないが、小粒でも中身の濃い、親密感の高い支部運営をしたいと努力しているところです。来る十二月五日の今年度の総会に百人を超える（高田高校の五百人超にはとても及びませんが…）会員の参加を得て盛会となることを願っています。

標題は支部長としての「キャッチワード」です。

